R5年度　医学科　学位授与方針（ディプロマ・ポリシー（DP））
（3＝DP達成のために、特に重要な事項　2＝DP達成のために、重要な事項　1＝DP達成のため、望ましい項目　あてはまらない項目は空欄。）

時間割コード(7桁)	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	GIO(一般目標)、学修目標	SBO(行動目標)、学修成果(到達目標)	医療人としての適切な判断力・行動力		コミュニケーション能力		問題解決・自己研鑽能力		知識を統合し活用する能力	臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力）		研究への志向力	グローバル化への志向力	地域医療への志向力
								1. 豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観に基づいて物事を判断し、行動することができる。	2. 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解し、患者の立場に立って行動することができる。	3. 医療安全の重要性を理解し、また、医師の義務や規則を遵守して行動することができる。	4. 医療人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、患者やその家族と良好な人間関係を築くことができる。	5. 多職種連携のチーム医療を理解し、相互を尊重し行動することができる。	6. 未知の課題に対して、自ら積極的に解決を図ろうとすることができる。	7. 生涯にわたり自己研鑽に励むことができる。	8. 基礎医学、社会医学及び臨床医学で修得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。	9. 修得した医学の知識をもとに、患者の病態から治療・ケアのアプローチまで概説することができる。	10. 基本的な知識、技能、態度を身につけ、患者を総合的に診察・診療することができる。	11. 研究心（リサーチマインド）を持って、真理を探究し、未知の分野を切り拓こうとすることができる。	12. 海外の医療や異文化を理解し、グローバルな視点で物事を判断し行動することができる。	13. 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取組もうとすることができる。
101675J	生体物質科学	1年			2	生体は、主に糖質、脂質、タンパク質、核酸等の有機物質から構成されており、特に生命現象や生体の機能、さらには疾患の原因等を分子レベルで理解するには、それらの生体有機物質の化学構造、性質、機能等に関する化学的な理解が不可欠である。そのような観点から、この授業では、まず基本的な官能基をもつ有機化合物の性質や反応を説明し、さらにその官能基の性質や反応性に基づいて糖質（単糖類、二糖類、多糖類）、脂質、アミノ酸・タンパク質、核酸の基本的な構造と性質・機能について解説する。	1．有機化合物の主な官能基を列挙し、その性質を説明できる。2．有機化合物の命名法を説明できる。3．置換反応、脱離反応、付加反応を説明できる。4．糖質（単糖類、二糖類、多糖類）の基本的な構造と性質・機能を説明できる。5．脂質の基本的な構造と性質・機能を説明できる。6．アミノ酸の種類と性質を説明できる。7．タンパク質の基本的な構造と機能を説明できる。8．ヌクレオシド・ヌクレオチド・核酸の構造と性質・機能を説明できる。					1		1					
101665A 101665B	自然科学実習（生物学）	1年			2	1. 顕微鏡の取り扱い、観察法を修得する。 2. 細胞、染色体、組織、器官、個体までの観察を通して生物の全体像を把握する。 3. 科学的プレゼンテーションの方法とレポート作成能力を鍛える。	1．　実験の基本操作を身につける。 2．　顕微鏡を自由に操作し、すばやく対象物を見ることが出来るようになる。 3．　パワーポイントを使ったプレゼンテーションの基本を身につける。 4．　レポートを書く科学的表現能力を高める。			1									
	自然科学実習（物理学・化学）					化学や物理学の実験がどのように行われるかを体得することにより，1）物質の反応や性質，実験の原理や法則に対する理解を深める，2）原理に立ち返って考える習慣や注意深い観察力を養う，3）実験器具の取り扱い法を学ぶ，ことが重要な目的である。教科書ではわずか１行しか記述されていないような事実にも，それが確立されるまでに膨大な実験が行われているのが普通である。講義による受動的な学習では，つい忘れがちになることを，みずから実験し能動的に学習することによりいっさきかでも感じ取ってもらいたい。	1）実習指針の原理を理解し，その指示にしたがって実験を行い，実験内容や測定値を記録することができる。 2）実験記録に基づいて実験結果を述べる。または，測定結果を解析し指定された物理量を算出できる。 さらに，適切な考察を加えてレポートを作成することができる。			1									
101920J	情報学・統計学演習	1年			1	情報科学演習で学んだ情報リテラシー，統計分析手法を基礎として，医療データ解析に広く使われる各種応用統計手法について統計処理ソフトを用いながら実習形式で学習する。	1. 統計処理ソフトを用いて，前期・情報科学演習で学んだ手法による統計解析を実施できる。2. 統計処理ソフトを用いて，次の各手法による統計解析を実施できる。 ・ノンパラメトリック検定（マン・ホイットニーのU検定など）　・カイ二乗検定及びフィッシャーの正確確率検定 ・二元配置分散分析，共分散分析　・ロジスティック回帰　・生存時間解析（生存率の推定，2群の生存率の比較，Cox回帰）　・主成分分析					3	3	3			3	3	
110530J	組織学	1年			64時間	人体の構造を機能と関連づけて深く理解するために，ミクロ的視点（組織・細胞レベル）から構築様態を認識するとともに，組織標本の光学顕微鏡（光顕）的および電子顕微鏡（電顕）的観察能力を養う。	1．細胞の基本的構造を光顕的および電顕的に説明する。　2．各組織の構成要素を顕微鏡的に理解し，組織全体の構成を説明する。　3．どのような組織が如何に組み合わさって各器官や臓器が構成されているのかを説明する。　4．組織・器官・器官系の組織学的構成を機能と関連して説明する。　5．染色法について理解し，各組織標本の染色について判別，説明する。　6．染色法，組織学的手法，免疫組織学的手法など，標本作製の手技について説明する。　7．組織標本を観察して所見をスケッチし，構成要素を同定するとともに，その組織学的特徴を記述する。	1		2		1	2	2	3			3	1	
110755J	生化学（実習）	1年			72時間	生命科学分野で新たに遺伝子工学が誕生してまだ歴史は浅いが，多くの分子生物学的実験手法が開発された。この技術のおかげで，３０億にのぼる塩基対からなるゲノムが解析され，特定の遺伝子を単離すること、また単離された遺伝子の構造を調べ、その機能を探ることも可能となった。今日までに膨大な数の遺伝子の詳細な構造が解明され、分子レベルでの生命現象の解明が大いに進んだ。医学の分野においてもしかりである。見当もつかなかった遺伝病の病因遺伝子が同定され、遺伝子を利用した新しい診断法や治療法が開発されている。遺伝子工学の誕生は、生命科学に劇的な進歩をもたらしただけではなく、分子細胞生物学・生化学的実験科学の本質を変えた。生化学実習では分子細胞生物学iの講講内容に基づき実習を展開し、実習で得た知識・技術を生化学を始めとする基礎医学や臨床医学を理解する礎とする。	実習前に配布する実習書に記載する。			3	2	3		3		3	3		
112820J	免疫学（基礎）	1年			28時間	免疫学は、近年の生命科学の中で最も発展した医学の分野です。免疫反応を担う細胞や因子が多彩な相互作用を通じてシステム全体を恒常的に維持するというメカニズムが解明されつつあります。また、免疫システムの機能のバランスが生体の恒常性維持に不可欠であり、この破綻が自己免疫疾患、免疫不全、アレルギー、癌などの様々な疾患につながることが明らかにされました。免疫システムの基本は、生物学的「自己」と「非自己」を識別することです。免疫システムは、病原体である非自己を排除することにより自己の全一性を守ります。では、無数の病原体に対する反応の多様性はどのように準備されているのでしょうか？免疫はどうして自己を攻撃しないのでしょうか？生物学的な自己と非自己を識別する仕組みはどうなっているのでしょうか？免疫記憶とはどのような機序なのでしょうか？１年生後期の免疫学（基礎）の講義と実習では、これらのメカニズムを理解するために必要な免疫学の基礎を学んでもらいます。（２年生後期（免疫学（展開））では、免疫応答が関わる具体的な疾患やその治療法について学んでもらいます）	1．　免疫系を構成する細胞・因子とその動態を説明できる。2．　自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。3．免疫システムの多様性獲得の分子基盤を説明できる。4．細胞性免疫と液性性(抗体）免疫の抗原認識の違いを説明できる。5．　免疫システムにおいてＭＨＣの役割を説明できる。6．　Ｔリンパ球とＢリンパ球の分化と成熟を説明できる。7．　免疫記憶の機序を説明できる。8．　自然免疫細胞の機能と役割を説明できる。9．　受容体シグナル伝達機構を説明できる。１０．サイトカイン・ケモカインの種類と機能を説明できる。１１．免疫応答におけるサイトカインネットワークを説明できる。１２．免疫応答の調節機構を説明できる。					3	3	3			3		
118615J	地域医療体験実習Ⅰ	1～6年	20時間			地域医療の現状ならびに課題を理解し，その地域に必要な医療・保健・介護・福祉について学び，医師として地域医療に貢献するための能力を獲得する。実際に医療現場を経験することにより，プライマリ・ケアや地域包括ケアの重要性を理解する。	地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を獲得する。	2	2	2	3	3	2	2	2				3
118616J	地域医療体験実習Ⅱ	1～6年	20時間			地域医療の現状ならびに課題を理解し，その地域に必要な医療・保健・介護・福祉について学び，医師として地域医療に貢献するための能力を獲得する。実際に医療現場を経験することにより，プライマリ・ケアや地域包括ケアの重要性を理解する。また，島根県の地域医療の魅力や課題を学ぶ。	地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を獲得する。	2	2	2	3	3	2	2	2				3
118606U	医学研究の基礎	1～6年	120時間			医学生が将来研究を志すなど，研究を実際に行うことに強い関心を持つ場合，基礎となる研究・手技等を教員の指導のもと、学生が自主的かつ主体的に　研究・手技修得を通じ科学的思考力を養う。	研究成果をまとめ、論文作成・発表能力を養う。	2		2	2	3	2	3	2	1	3	2	2
118607J	上級TOEICセミナーⅠ	1～6年		20時間		本科目は、TOEICListening&ReadingTest600点（日常生活のニーズを充足し限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができるレベル）のスコアを有する学生に認定する科目です。*本科目は医学部の英語教育高度化プログラム「AdvancedEnglishSkillsCourse」の対象科目です。在学中に本コースの科目群から合計120時間（看護学科3単位）以上履修した学生には修了認定証（CertificateforAdvancedEnglish Skills）が授与されます。	(1)　文レベルからある程度まとまった量の英語を聞き、その内容が理解できる。(2)　与えられた英文について，すばやく的確な文法的判断ができる。(3)　与えられた英語の文章について，求められた情報をさっと読みとることができる。												3	
118608J	上級TOEICセミナーⅡ	1～6年			20時間	本科目は、TOEICListening&ReadingTest730点（どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えているレベル）のスコアを有する学生に認定する科目です。*本科目は医学部の英語教育高度化プログラム「AdvancedEnglishSkillsCourse」の対象科目です。在学中に本コースの科目群から合計120時間（看護学科3単位）以上履修した学生には修了認定証（CertificateforAdvancedEnglish Skills）が授与されます。	(1)　文レベルからある程度まとまった量の英語を聞き、その内容が理解できる。(2)　与えられた英文について，すばやく的確な文法的判断ができる。(3)　与えられた英語の文章について，求められた情報をさっと読みとることができる。												3	
118609Ｊ	グローバルリテラシ-セミナーⅠ	1～6年			20時間	高度な英語コミュニケーション能力を身につけるとともに、異文化間に生じる諸課題を検討し，国際感覚あふれるグローバルな視野から物事を批判的に捉えることができる資質（グローバル・リテラシー）を身につけることを目的とする。本授業では、適切な英語表現を用いてディスカッションをする、意見を述べる、議論を進行する、進捗状況を報告する、といった様々なミーティングの場面に役立つ英語表現の演習を行う。*本科目は医学部の英語教育高度化プログラム「Advanced English Skills Course」 の対象科目です。在学中に本コースの科目群から合計120時間（看護学科3単位）以上履修した学生には修了認定証（Certificate for Advanced EnglishSkills）が授与されます。	Students will gain confidence and the ability to express themselves more clearly.Meeting Skills:・How to politely speak up and express opinions・How to agree and disagree with others・How to report progress・Setting up a meeting and steps of the meeting												3	
118610Ｊ	グローバルリテラシ-セミナーⅡ	1～6年			20時間	高度な英語コミュニケーション能力を身につけるとともに、異文化間に生じる諸課題を検討し，国際感覚あふれるグローバルな視野から物事を批判的に捉えることができる資質（グローバル・リテラシー）を身につけることを目的とする。本授業では、ディスカッションやディベートにおいて、相手の意見に同意する、反対する、要求を伝える、相手や自分のニーズを理解した上で議論する、妥協点を見出す、といった英語による「交渉スキル（negociatingskills）」を身につけるための実践的な語学演習を行います。*本科目は医学部の英語教育高度化プログラム「Advanced English Skills Course」 の対象科目です。在学中に本コースの科目群から合計120時間（看護学科3単位）以上履修した学生には修了認定証（Certificate for Advanced EnglishSkills）が授与されます。	Students will gain confidence and the ability to express themselves more clearly in order to obtain their goals.Negotiating Skills:•How to prepare for negotiating by considering the needs and wants of others and yourself•How to express your needs and wants•How to agree and disagree with others•How to bargain and compromise												3	
118611Ｊ	海外留学セミナー	1～6年			20時間	This course is designed as a practical overview of culture and intercultural communication. The teacher willattempt to link theory, research, practice and experience with specific activities to help the students developcultural awareness. Students will also study and use basic powerpoint skills to create short group presentations tointroduce Japanese culture, the Izumo area, our school and the healthcare system of Japan when they go overseas.本授業では、海外研修や留学に必要となる語学演習を行うとともに、異文化の理解関する理解を深めます。また日本や島根の文化、大学、日本の医療制度を英語で紹介するプレゼンテーションの演習を行います。(海外研修参加者は必修)。*本科目は医学部の英語教育高度化プログラム「Advanced English Skills Course」 の対象科目です。在学中に本コースの科目群から合計120時間（看護学科3単位）以上履修した学生には修了認定証（Certificate for AdvancedEnglish Skills）が授与されます。	Speaking: Advanced practice of key vocabulary and sentence patterns essential to basic conversational skills.Culture: Improved self-awareness as well as deeper cultural awareness.Technology: work with basic powerpoint techniques.												3	
118612Ｊ	臨床英語	1～6年	20時間			本科目は医学英文の読解や英語によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて、臨床に必要となる英語力の向上を目指します。*本科目は医学部の英語教育高度化プログラム「Advanced English Skills Course」 の対象科目です。在学中に本コースの科目群から合計120時間（看護学科3単位）以上履修した学生には修了認定証（Certificate for Advanced EnglishSkills）が授与されます。	1）臨床、基礎医学に関する科学的・医学的事項に関して英語で発表、プレゼンすることができる2）英語で質疑応答することができる3）英語で記載された症例報告や研究論文を理解し、他者へ口頭で伝えることが出来る									3			3	
118613Ｊ	アカデミックイングリッシュA	1～6年		20時間		The mere ability to speak English is no guarantee that a person can present in English. Presentations in Englishwill build and improve student English skills and knowledge and give confidence to make effective presentationsin English. セミナーや学会で英語でプレゼンテーションする際に必要となる基礎的なプレゼンテーションスキルの向上を目指した語学演習を行います。*本科目は医学部の英語教育高度化プログラム「Advanced English Skills Course」 の対象科目です。在学中に本コースの科目群から合計120時間（看護学科3単位）以上履修した学生には修了認定証（Certificate for AdvancedEnglish Skills）が授与されます。	Students will analyze various presentations, give full presentations, get feedback and set targets for futurepresentations. The focus will be on the students at all stages. We will encourage each student to analyze,experiment, take a risk, have fun, accept, reject and finally, to find out what works personally for each student.												3	
118614Ｊ	アカデミックイングリッシュB	1～6年			20時間	This course is designed as an elective course for students wishing to advance their academic writing skills. We arestriving to provide students with a practical and efficient approach to learning the skills, strategies and knowledgenecessary for successful writing.本授業では、英語論文やレポート執筆の際に必要となる上級レベルのライティング能力の向上を目指した語学演習を行います。*本科目は医学部の英語教育高度化プログラム「Advanced English Skills Course」 の対象科目です。在学中に本コースの科目群から合計120時間（看護学科3単位）以上履修した学生には修了認定証（Certificate for Advanced EnglishSkills）が授与されます。	Each unit contains an authentic text to support students by providing ideas and context. Students will read and analyzethese texts to see how others have written on the same or similar topics. The students will be encouraged to worktogether, share ideas and edit their own writing to refine their writing to be the best it can be.												3	
118603I	海外研修A	1～6年	40時間			(1)基礎的な英語コミュニケーション能力と専門英語（医学英語、看護英語）の基礎力向上をはかり、 (2)海外の医療教育機関や施設の見学を通じて、医療に関する知識や視野を広げ、 (3)ホームステイ等による異文化交流体験を通じて国際性を養うこと	・医療に関する英語の基本的な語彙や表現を理解し、表現できる ・海外（ニュージーランド）の文化や医療制度について理解できる ・ホストファミリー、現地の学生や医療関係者の方々との交流を通じて、医療人として必要な国際性を身につけること ・日本の文化や医療制度について英語を使って紹介できる ・研修中の団体行動を通じて、協調性やリーダシップを発揮できる												3	
118604O	海外研修B	1～6年	40時間			海外の医療施設・研究所等で医療に関する体験学習、施設見学を通じて海外における医療制度や体制について学ぶとともに、様々な異文化体験を通じて、医療人としての視野を広げ、国際性を養うことを目的とします。	・海外の地域医療・家庭医療について学ぶ。 ・海外の保健制度について学ぶ。 ・海外の医療教育機関や施設での実習や見学を通じて、医療に関する知識や視野を広げる。 ・医療の専門分野で必要な英語コミュニケーション能力を身につける ・海外での異文化交流体験を通じて、国際性を養う。												3	
118605I	海外研修C	1～6年	40時間			海外の教育機関での医学英語学習や海外の医療施設や研究所で医療に関する体験学習、施設見学、実習等を通じて海外における医療制度や体制について学ぶとともに、様々な異文化体験を通じて、医療人としての視野を広げ、国際性を養うことを目的とします。	・海外の地域医療・家庭医療について学ぶ。 ・海外の保健制度について学ぶ。 ・海外の医療教育機関や施設での実習や見学を通じて、医療に関する知識や視野を広げる。 ・医療の専門分野で必要な英語コミュニケーション能力を身につける ・海外での異文化交流体験を通じて、国際性を養う。												3	
101131A 101131B	医学英語Ⅰ	2年			0.5	医療分野に関する題材をもとにしたリーディング、リスニング中心の語学演習を行い、医師として必要な英語コミュニケーション能力の向上を目指します。リーディング演習においては、基本語彙の定着とともに医療分野の英文、論文、症例報告に特有の言語的な特徴を理解することで読解力の向上を目指します。また、リスニング演習においては医学関連のニュースを題材に、概要を理解するとともに、細部を正確に聞き取るための演習を行います。	(1)　医療分野の英文に特有な語彙、文法、構文を理解できる。(2)　医療英文を読み、内容を正確に理解できる。(3)　医療に関するニュースや英文や会話を聞いて、内容を正確に理解できる。(4)　様々な英文ウェブサイトで公開されている医療情報について概要を理解できる。			3									3	
101136A 101136B	医学英語Ⅱ	2年		0.5		医療分野のジャンルに特有の語彙、構文、表現等における言語的な特徴を理解し、多読、精読による読解演習、医療分野のニュースを題材としたリスニング演習によって、医師として必要な英語コミュニケーション能力の基礎力を身につける。	(1) 医療分野の英文に特有な語彙、文法、構文を理解できる。 (2) 医療英文を読み、内容を正確に理解できる。 (3) 医療に関するニュースや英文や会話を聞いて、内容を正確に理解できる。 (4) 様々な英文ウェブサイトで公開されている医療情報について概要を理解できる。			3									3	

R5年度　医学科　学位授与方針（ディプロマ・ポリシー（DP））
（3＝DP達成のために、特に重要な事項　2＝DP達成のために、重要な事項　1＝DP達成のため、望ましい項目　あてはまらない項目は空欄。）

時間割コード(7桁)	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	GIO(一般目標)、学修目標	SBO(行動目標)、学修成果(到達目標)	医療人としての適切な判断力・行動力 1. 豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観に基づいて物事を判断し、行動することができる。	2. 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解し、患者の立場に立って行動することができる。	3. 医療安全の重要性を理解し、また、医師の義務や規則を遵守して行動することができる。	コミュニケーション能力 4. 医療人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、患者やその家族と良好な人間関係を築くことができる。	5. 多職種連携のチーム医療を理解し、相互を尊重し行動することができる。	問題解決・自己研鑽能力 6. 未知の課題に対して、自ら積極的に解決を図ろうとすることができる。	7. 生涯にわたり自己研鑽に励むことができる。	知識を統合し活用する能力 8. 基礎医学、社会医学及び臨床医学で修得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。	臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力） 9. 修得した医学の知識をもとに、患者の病態から治療・ケアのアプローチまで概説することができる。	10. 基本的な知識、技能、態度を身につけ、患者を総合的に診察・診療することができる。	研究への志向力 11. 研究心（リサーチマインド）を持って、真理を探究し、未知の分野を切り拓こうとすることができる。	グローバル化への志向力 12. 海外の医療や異文化を理解し、グローバルな視点で物事を判断し行動することができる。	地域医療への志向力 13. 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取組もうとすることができる。
101141A 101141B 101141C 101141D	実用英語演習Ⅰ	2年		0.5		Murphy: Thiscourseisdesignedtohelp2nd-yearmedicalstudentsimproveheirEnglishcommunicationskills,withparticularattentiontowriting.Studentswilllearnaboutanumberofscience-relatedtopicsandworkon developing their expressive ability through reading, discussion, and writing tasks. Telloyan: Thiscourseisdesignedformedicalstudentswhoonedaywishtobecomedoctors.Itpresentsthemwith Englishfromawidevarietyofmedicalfieldsandsituations,developstheircommunicationskills,andprovidesthemwithbackgroundinmajormedicalandcareconcepts.Pertinentmedicalterminologywillbepresented in a variety of ways in each unit.	Murphy: The students will acquire up-to-date vocabulary and expressions which then by applying to theirindependent writing tasks will enable them to enhance the quality of their English expression. Telloyan: The goal of this class is to systematically build the student's ability to learn and use advanced English in amedical atmosphere. Our goal is for the students to have confidence to present their own thoughts, feelingsand opinions in English in a medical situation. The students will combine exposure to medical Englishwith practice in various settings to help them achieve a higher level of proficiency.				3								3	
101146A 101146B 101146C 101146D	実用英語演習Ⅱ	2年			1	Murphy: Thiscourseisdesignedtohelp2nd-yearmedicalstudentsimproveheirEnglishcommunicationskills,withparticularattentiontowriting.Studentswilllearnaboutanumberofscience-relatedtopicsandworkondeveloping their expressive ability through reading, discussion, and writing tasks. Telloyan: Thiscourseisdesignedformedicalstudentswhoonedaywishtobecomedoctors.Itpresentsthemwith Englishfromawidevarietyofmedicalfieldsandsituations,developstheircommunicationskills,andprovidesthemwithbackgroundinmajormedicalandcareconcepts.Pertinentmedicalterminologywillbepresented inavariety of ways in each unit.	Murphy: The students will acquire up-to-date vocabulary and expressions which then by applying to their independentwriting tasks will enable them to enhance the quality of their English expression. Telloyan: The goal of this class is to systematically build the student's ability to learn and use advanced English in amedical atmosphere. Our goal is for the students to have confidence to present their own thoughts, feelingsand opinions in English in a medical situation. The students will combine exposure to medical English withpractice in various settings to help them achieve a higher level of proficiency.				3								3	
110512J 110522J	解剖学Ⅰ・Ⅱ （筋・骨格・末梢神経学）	2年		30時間		２年次に、解剖学と生理学に て人体の構造と機能に関する能力知識を習得する必要がある。その中で、身体の運動・感覚機能に関わる構造と機能の基本を、筋・骨格系・末梢神経系（自律神経系を含む）を軸とした講義・実習を通して理解する。	・人体の主な骨格の構成と機能を説明できる。・四肢、体幹、頭頸部の骨格筋名とその支配神経、関節における作用を説明できる。・脊髄神経と神経叢の構成及び、主な骨格筋支配と皮膚分布を概説できる。・脳神経の名称、走行・分布と機能を概説できる。・臓器に分布する自律神経叢、神経節を概説できる。	2		2	2	2	3	2	3			3	1	
	解剖学Ⅰ・Ⅱ （内臓学）	2年		8時間		人体を構成する器官系の種類と各器官系を構成する内臓（器官）と、器官の間および器官系の間における構造と機能の関係を学び、人体の構造を機能との関連において系統的に理解できる能力を養う。	・人体を構成する器官系と各器官系を構成する内臓（器官）を系統的に説明できる。　・各器官系内の器官の間の関係を組織学的構造および機能と関連づけて説明できる。　・器官系間の関係を機能と関連づけて説明できる。　・体腔の区分と臓器の配置を機能と関連づけて説明できる。	2		2	1	2	2	1	3			3	1	
	解剖学Ⅰ・Ⅱ （人体解剖学）	2年		184時間		全ての専門科目学習の基幹となる人体に関する知識を修得するために、正常な体の形態と構造を系統的に理解した上で、各系統の関係を有機的かつ三次元的に把握し、構造と機能の関連について理解できる能力を養う。	1．各系統を構成する個々の器官の形態や構造および互いの立体的な位置関係を正しく理解し、　解剖学用語を用いて説明する。　2．各器官の構造や系統の構成を機能と関連づけて説明する。　3．人体局所の剖出を行って三次元的に理解した上で、その肉眼的所見を説明する。　4．正常な構造における性差や個体差について説明する。	2		2	2	2	2	2	3			3	1	
	解剖学Ⅰ・Ⅱ （中枢神経学）		31時間			今後に学ぶ薬理学、平行して行う生理学、臨床専門科目の脳神経外科学、神経内科学、精神医学、整形外科学、放射線医学、眼科学、耳鼻咽喉科学などの基盤となるものである。脳・脊髄の構成を立体的および全体的に把握するとともに、その構成要素のつながりを機能そして臨床的に重要な事項と関連づけて理解する。	以下のコアカリキュラム記載の項目を説明・概説できること。・中枢神経系（と末梢神経系）の構成・脳の血管支配と血液脳関門　・髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環・脊髄の構造、機能局在と伝導路・脳幹の構造と伝導路　・脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能・大脳の構造・大脳皮質の機能局在（運動野・感覚野・言語野）　・辺縁系の構成・錐体路・小脳の構造と機能　・大脳基底核（線条体、淡蒼球、黒質）の線維結合・痛覚、温度覚、触覚と深部感覚の受容機序と伝導路　・視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路・交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、系統分布、機能と伝達物質・視床下部の構造	2		2	2	2	3	2	3			3	1	
	解剖学Ⅰ・Ⅱ （人体発生学）			14時間		成体における諸器官の複雑な立体構築とその意義をより良く理解するために、受精から出生さらに死にいたるまでの過程における様々な発生現象とそのメカニズムを理解し、また各発生段階、臓器・器官系における発生の異常がどのような原因によって起こり、どのような結果をもたらすかを認識する。	1．　胎生期を構造・機能的観点から系統的に区分し、それぞれの時期における特徴的な発生現象を　　説明する。2．各器官，組織がどのような過程を経て形成されて成体のそれに到達するのか，また互いの最終的な　　位置関係に置かれるのかを記述する。3．先天異常の種類・成因・頻度を述べ、その主なものについて発生病理を説明する。	2		2	1	2	1	1	3			3	1	
110617J	生理学Ⅰ（講義）	2年		34時間		1、生理学の基本概念であるホメオスターシスを理解する。2、本科目で講義される調節系を学び、それらの調節メカニズムを理解する。3、それぞれの調節系の有機的関連を理解し、個体維持のメカニズムを包括的に学ぶ。	1、血圧の決定要因と調節メカニズムを説明できる。2、呼吸調節メカニズムとガスの運搬様式を説明できる。3、クリアランスの概念を用いて尿の生成メカニズムを説明できる。 4、消化・吸収のメカニズムを概説できる。5、内分泌系による情報伝達メカニズムを説明できる。6、女性性周期、生殖を概説できる。							2						
110618J	生理学Ⅰ（実習）	2年			24時間	1、生理学の基本概念であるホメオスターシスを理解する。2、本科目で講義される調節系を学び、それらの調節メカニズムを理解する。3、それぞれの調節系の有機的関連を理解し、個体維持のメカニズムを包括的に学ぶ。	1、血圧の決定要因と調節メカニズムを説明できる。2、呼吸調節メカニズムとガスの運搬様式を説明できる。3、クリアランスの概念を用いて尿の生成メカニズムを説明できる。 4、消化・吸収のメカニズムを概説できる。5、内分泌系による情報伝達メカニズムを説明できる。6、女性性周期、生殖を概説できる。						3	2						
110615J	生理学Ⅰ	2年	48時間			1、生理学の基本概念であるホメオスターシスを理解する。 2、本科目で講義される調節系を学び、それらの調節メカニズムを理解する。 3、それぞれの調節系の有機的関連を理解し、個体維持のメカニズムを包括的に学ぶ。	1、血圧の決定要因と調節メカニズムを説明できる。 2、呼吸調節メカニズムとガスの運搬様式を説明できる。 3、クリアランスの概念を用いて尿の生成メカニズムを説明できる。 4、消化・吸収のメカニズムを概説できる。 5、内分泌系による情報伝達メカニズムを説明できる。 6、女性性周期、生殖を概説できる。						3	2						
110627J	生理学Ⅱ（講義）	2年	26時間			断片的な知識の暗記に留まることなく、生理学的な物の考え方をしっかり修得する。このことにより柔軟な思考能力を自己研鑽する習慣を養う。	(1)興奮性細胞の基礎現象(静止膜電位・興奮・伝達)を概説できる。(2)感覚器官の生理機能を概説できる。(3)神経回路網による生体レベルでの情報統合と制御機能を概説できる。(4)心筋の活動と循環機能の制御を概説できる。	2				2		3	3			3		
110628J	生理学Ⅱ（実習）	2年			14時間	断片的な知識の暗記に留まることなく、生理学的な物の考え方をしっかり修得する。このことにより柔軟な思考能力を自己研鑽する習慣を養う。	(1)興奮性細胞の基礎現象(静止膜電位・興奮・伝導・伝達)を概説できる。(2)感覚器官の生理機能を概説できる。(3)神経回路網による生体レベルでの情報統合と制御機能を概説できる。(4)心筋の活動と循環機能の制御を概説できる。	2			2	2	3	3	3			3		
110625J	生理学Ⅱ	2年	40時間			【講義】 神経・筋肉系の生体機能を生み出すシステムを分子から個体レベルまで広く学び、人体の正常生理機能についての理解を深める。 【実習】 ヒトおよび動物を対象として細胞レベル、組織レベル、個体レベルでの解析を行うことで生理システムを理解し、考察する力を養う。	【講義】 (1)神経細胞の基礎現象(膜電位・興奮・伝導)を説明できる。 (2)骨格筋・平滑筋・心筋の構造と機能を説明できる。 (3)感覚器官の構造と機能を説明できる。 (4)中枢神経系における情報統合と機能発現の機構を説明できる。 【実習】 (1)活動電位の発生と伝導を説明できる。 (2)骨格筋の制御機構を説明できる。 (3)心電図の測定法としくみを説明できる。 (4)実験結果についての科学的考察ができる。	2			2	2	3	3	3			3		
110730J	生化学 （講義）	2年			85時間	分子を基礎に生命現象を明らかにするのが生化学である。従って、生体の構成成分の構造・機能及びそれらの代謝は勿論のこと、遺伝子や代謝異常を含む種々なる疾患の原因と治療につながる生体成分の動態の解明すべてが生化学の課題である。近年この分野の進歩は著しく、その増え続ける知識をすべて吸収することは不可能である。学生諸君に求められるのは単なる知識の記憶ではなく、原理、原則を知ってこれを応用する能力と、問題点を自ら発見し、これを解決する能力である。具体的には、人体を構成する物質の構造、機能およびその代謝と、人体における遺伝子発現を理解し、これを臨床医学に応用する能力を養うとともに、自ら考え、学ぶ習慣を身につける。	１）エネルギー産生と消費の過程を説明する。２）糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝経路を消化、吸収、輸送、排泄をふくめて説明する。３）それぞれの代謝経路の調節と相互関係を説明する。４）遺伝子発現とその調節機構を説明する。５）上記のそれぞれについて、その異常をひきおこす原因を列挙し、結果として生ずる人体への影響を述 べる。				3		3	3	3	3	3		
110951J	医科遺伝学	2年			15時間	医学教育モデル・コア・カリキュラム（H28年度改訂版）に、新たに遺伝医療とゲノム医療に関わる学習目標が加わった。1つは「病因と病態」の中の「遺伝的多様性と疾患（ゲノム・染色体・遺伝子の多様性と疾患との関係を理解する）」であり、もう1つは「全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療」の中の「遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性（遺伝情報・ゲノム情報の特性を理解し、遺伝情報・ゲノム情報に基づいた診断と治療、未発症者を含む患者・家族の支援を学ぶ）」である。それぞれ、7項目と8項目の学修目標がある。分子遺伝学を学ぶとともに、遺伝カウンセリングを代表とする臨床遺伝学、そして遺伝医療における倫理的・法的・社会的配慮等についても概説する。卒業時に、遺伝医療およびゲノム医療に関わるチームの診療内容を十分に理解できることを目的とする。	1．　メンデル遺伝および非メンデル遺伝について概説できる。2．　染色体および遺伝子の異常による疾患について概説できる。3．　遺伝情報の特性（不変性、予見性、共有性）を説明できる。4．　がんゲノム医療における遺伝学的検査の目的と意義を概説できる。5．　遺伝カウンセリングの意義と方法を説明できる。	3		2					1					
112830J	免疫学 （展開）	2年			16時間	生体の恒常の維持には免疫システムの機能的バランスが不可欠です。免疫応答が機能不全になれば感染症や免疫不全が問題となり、免疫応答性が過剰になれば自己免疫疾患やアレルギーなどの様々な疾患が生じます。免疫力が低下するとがんに対する抵抗力も低下します。２年生では、１年生後期で学んだ基礎免疫学の知識を基にして、これらの疾患の病態や病態の理解に基づく治療法について学びます。さらに、がんに対する免疫療法や臓器移植に伴う免疫応答の制御法や生殖免疫についても学んでもらいます。	1、　免疫応答を調整する細胞や分子を説明できる。2、　様々な感染症に対する生体防御・免疫反応を説明できる。3、 様々な自己免疫疾患の免疫的病態を説明できる。4、自己免疫疾患に対する治療を説明できる。5、　アレルギー疾患・アナフィラキシーの病態と治療を説明できる。6、　免疫不全の種類と病態を説明できる。7、　がんに対する免疫応答と免疫学的治療法を説明できる。8、　生殖免疫にかかわる免疫応答を説明できる。9、　移植拒絶、移植片対宿主病の病態を説明できる。１０．免疫抑制性細胞について説明できる。						3	3	3			3		
112520 J	薬理学 （基礎）	3年			68時間	○ 薬理学に関する基本的な知識を体系的に学習する。 ○ 薬理学的な思考方法を習得し、薬物治療に対する生涯学習の基礎を作る。 ○ 薬物治療へ向けた応用力を養う（情報収集・分析　→　思考　→　判断）。	○薬物・毒物の濃度反応曲線を描き、その決定因子を説明できる。 ○薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性及び活性薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。 ○薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。 ○薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。 ○薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。 ○薬物投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻等）を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。 ○薬物の評価におけるプラセボ効果の意義を説明できる。 ○インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。 ○臨床試験・治験と倫理性（ヘルシンキ宣言、第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ相試験、医薬品の臨床試験の実施の基準(Good Clinical Practice)を説明できる。 ○薬物に関する法令を概説し、医薬品の適正使用に関する事項を列挙できる。 ○副作用と有害事象の違い、報告の意義（医薬品・医療機器等安全性情報報告制度等）を説明できる。 ○薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。 ○薬物（オピオイドを含む）の蓄積、耐性、タキフィラキシー、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。 ○主な薬物アレルギーの症候、診察、診断を列挙し、予防策と対処法を説明できる。 ○薬物によるアナフィラキシーショックの症候、診断、対処法を説明できる。 ○各臓器系統（中枢・末梢神経、循環器、呼吸器、消化器、腎泌尿器、血液、内分泌等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 ○抗微生物薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 ○抗腫瘍薬の適応、腫瘍の薬物療法（殺細胞性抗癌薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬）有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 ○麻薬性鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 ○主な薬物の有害事象を概説できる。/年齢や臓器障害に応じた薬物動態の特徴を考慮して薬剤投与の注意点を説明できる。/薬物（動態的）相互作用について例を挙げて説明できる。 ○分子標的薬の薬理作用と有害事象を説明できる。 ○漢方医学の特徴や、主な和漢薬（漢方薬）の適応、薬理作用を概説できる。 ○ポリファーマシー、使用禁忌、特定条件下での薬物使用（アンチ・ドーピング等）を説明できる。/有機リン剤、有機塩素剤と有機溶剤による中毒の機序、診断と治療を説明できる。 ○アルコール、鎮静剤、麻薬、中枢毒などの乱用薬物による中毒を説明できる。/医薬品による中毒を説明できる。						3	3	3			1	1	1

R5年度　医学科　学位授与方針（ディプロマ・ポリシー（DP））
（3＝DP達成のために、特に重要な事項　2＝DP達成のために、重要な事項　1＝DP達成のため、望ましい項目　あてはまらない項目は空欄。）

時間割コード (7桁)	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	GIO(一般目標)、学修目標	SBO(行動目標)、学修成果(到達目標)	医療人としての適切な判断力・行動力 1. 豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観に基づいて物事を判断し、行動することができる。	2. 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解し、患者の立場に立って行動することができる。	3. 医療安全の重要性を理解し、また、医師の義務や規則を遵守して行動することができる。	コミュニケーション能力 4. 医療人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、患者やその家族と良好な人間関係を築くことができる。	5. 多職種連携のチーム医療を理解し、相互を尊重し行動することができる。	問題解決・自己研鑽能力 6. 未知の課題に対して、自ら積極的に解決を図ろうとすることができる。	7. 生涯にわたり自己研鑽に励むことができる。	8. 基礎医学、社会医学及び臨床医学で修得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。	臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力） 9. 修得した医学の知識をもとに、患者の病態から治療・ケアのアプローチまで概説することができる。	10. 基本的な知識、技能、態度を身につけ、患者を総合的に診察・診療することができる。	研究への志向力 11. 研究心（リサーチマインド）を持って、真理を探究し、未知の分野を切り拓こうとすることができる。	グローバル化への志向力 12. 海外の医療や異文化を理解し、グローバルな視点で物事を判断し行動することができる。	地域医療への志向力 13. 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取組もうとすることができる。
112720 J	細菌学	2年			29時間	1. 分類学・形態学・生理学・生化学・分子生物学・遺伝学を用いて微生物を理解する。2. 感染と発症を、微生物の病原因子と宿主側の防御バリアーとの攻防という視点で捉える。　そのために、感染成立から発症にいたる過程を、免疫学と分子生物学の知識を動員して理解する。3. 滅菌・消毒法および感染症の化学療法を理解する。4. 微生物学的検査法（培養法・観察法・同定法）の概略を理解する。5. 個々の病原微生物の分類学的特徴、形態、生理、病原性、生態、などを理解する。6. 感染症の疫学、病態、微生物学的診断、予防・治療法を理解する。	1．微生物学の歴史の概略を述べる。2．微生物の分類法および代表的な病原微生物の系統分類学的な位置と学名を述べる。3．微生物の形態学・生理学・生化学的な特徴について述べる。4．微生物の変異と遺伝、および遺伝子工学研究法についての概略を述べる。5．感染症の定義と分類、常在微生物叢と内因感染、感染症の推移、感染症成立の要因を列挙する。6．感染という概念を、病原体の病原因子と宿主防御機構の２つの観点から説明できる。7．微生物学的診断法(原因微生物の分離同定、生化学的性状検査、免疫・分子生物学的検査)を述べる。8．病原微生物の滅菌法と消毒法についての理論と実際について説明できる。9．化学療法の定義、歴史、主な抗微生物薬の選択毒性・作用機作・抗菌スペクトラム、薬剤耐性、薬剤感受性試験法について述べる。10.院内感染の定義、発生要因、感染経路、起因微生物、防止対策について述べる。11.主な伝染病の種類とその対策について列挙できる。12.次の病原微生物の分類・形態・生理・病原性、感染症の病態・疫学、微生物学的診断・予防・治療法の概略を述べる。1）グラム陽性球菌（ブドウ球菌，連鎖球菌，腸球菌）2）グラム陰性通性嫌気性桿菌（腸内細菌科，ビブリオ科，パスツレラ科）3）グラム陰性好気性桿菌および球菌（シュードモナス，レジオネラ，ナイセリア，ブルセラ，ボルデテラ，フランシセラなど）4）好気性／微好気性，グラム陰性らせん菌（スピリルム，カンピロバクター，ヘリコバクター）5）芽胞形成グラム陽性桿菌（バシラス，クロストリジウム）6）無芽胞嫌気性桿菌（バクテロイデス，プレボテラ，リステリア）7）不規則無芽胞グラム陽性桿菌（コリネバクテリウム，アクチノミセス）8）マイコバクテリウム（結核菌，非結核性抗酸菌，らい菌）9）スピロヘータ（トレポネーマ，ボレリア，レプトスピラ）10）マイコプラズマ（M.pneumoniae）11）リケッチア（発疹チフス群，紅斑熱群，恙虫病群，Q熱群）12）クラミジア（C.trachomatis, C.psittaci, C.pneumoniae）13）病原性真菌（1）接合菌（2）子嚢菌および関連不完全菌：糸状菌（3）子嚢菌酵母および関連不完全菌酵母（4）担子菌酵母および関連不完全菌酵母					3		3					3	
101151A, 101151B	英語論文読解演習	3年		0.2		医師または研究者として活躍していく上で、医学分野における最新情報をすばやく検索し、その内容を速く正確に理解することがきわめて重要です。「英語論文読解演習」では、ライフサイエンス分野の英語論文を読解するための基礎力養成を目指し、ライフサイエンス分野の論文に見られる言語的な特徴を理解した語彙、読解演習を行います。	（1）医学分野の論文やテキストの読解に必要な基本語彙を習得する。（2）医学分野の論文やテキストに見られる文構成、特徴的な表現等の言語的な特徴を理解する。（3）医学分野の論文やテキストを読み、概要を理解できる。（4）医学分野に論文やテキストにおける図や表の読み方の基本を理解する。												3	
112530J	臨床薬理学	3年			20時間	臨床薬理学とは、薬理学を基にして「科学的かつ合理的な薬物治療」を確立することを目的とする学問領域です。それゆえに本講義では単に薬物作用を学習するだけではなく、薬物動態、薬物相互作用、薬物有害反応、遺伝薬理学、臨床試験などを系統的に学習し、臨床薬理学的な思考方法を身に着けることを目的としています。	〇多剤併用と薬物相互作用について説明できる。〇年齢や臓器障害に応じた薬物動態の特徴を考慮して薬剤投与の注意点を説明できる。〇薬物代謝について詳しく説明できる。〇副作用と有害事象の違い、主な薬物の有害事象、報告の意義（医薬品・医療機器等安全性情報報告制度等）を説明できる。〇インフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。〇臨床試験・治験と臨床研究の違いを説明できる。〇薬物に関する法令を概説し、医薬品の適正使用に関する事項を列挙できる。〇薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。〇主な薬物アレルギー・アナフィラキシーショックの症候、診察、診断を列挙し、予防策と対処法を説明できる。〇非薬性鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。〇処方箋の書き方、服薬の基本・アドヒアランスを説明できる。〇ポリファーマシー、使用禁忌、特定条件下での薬物使用（アンチ・ドーピング等）を説明できる。〇抗ウイルス薬、免疫関連薬、排尿障害治療薬、などの薬物について説明できる。〇薬害について説明できる。			3				3		1			
112630J	病理学	3年			42時間	病理学は、基礎医学と臨床医学を結びつける要に位置する学問分野です。皆さんはここで初めて、いろいろな疾患について系統的に学ぶことになります。病理学においては、遺伝学、生理学、生化学、解剖学、組織学、免疫学といった多くの専門領域で培った知識や思考法をもとに、それを応用して種々の疾患の成り立ち、経過を理解することが大きな目標となります。そのためには、まず、人体の「正常な」構造や機能について学んだ、上記の各分野の知識をきちんと整理して、引き出しからすぐに取り出せる状態にしておくことが最低限必要です。充分な復習をしておいてください。病理学の講義には、3年前期に開講する病理学総論と３～４年のチュートリアル学習の中で各コースに用意されている病理各論実習があります。また病理総論はさらに２つの部分に分かれます。ひとつは従来の「病理学総論」に相当するもので、もうひとつは「病理診断学総論」と呼べるものです。病理学総論では大きく分けて2つのことを学びます。ひとつは、様々な疾患のpathogenesis（発生病理）についての普遍的概念を大づかみに理解することです（pathogenesisとetiologyは異なる概念であることに留意してください）。この中には、「細胞障害」「変性、壊死」「創傷治癒」「炎症」「循環障害」「腫瘍」といった項が含まれます。ふたつめは病因論（etiology）です。これは疾病の原因に関わるもので、「免疫」「遺伝、先天障害」「物理的、化学的要因」「感染症」などがそれにあたります。近年、医学の進歩に伴い、「免疫学」や「腫瘍学」の分野は病理学の枠を飛び出して独立した領域となっています。実際、皆さんもすでに「腫瘍学」「免疫学」「遺伝学」の講義を受けています。このような状況をふまえ、病理学総論では、「病因論」のパートを基礎各分野の復習と臨床へのスムーズな移行をめざすものとして位置づけます（基礎的事項は理解できていることが前提となります）。それに対して、病理学総論の前半部分、「発生病理-pathogenesis」は病理学固有のものであり、これから「病理診断学総論」やチュートリアルコースでの「病理学各論実習」で種々の疾患の病理標本を観察していく上でも基礎となる重要な分野となります。これについては、実習も含めてしっかり身につけてほしいと考えます。病理診断学総論では、近年重要さを増している病理診断の基礎を学びます。病理学総論の知識をもとに、形態学的変化の観察方法や形態学的な情報から病気の診断を行うための基本的な考え方について学び、実習を通じて身につけることを目標とします。組織学の知識が必須となりますので、復習をしておいてください。チュートリアル各コースでの病理学各論実習では、各領域の代表的疾患でみられる病理組織学的変化を、総論の知識を活かして学習することになります。その中で病理診断の考え方についても適宜触れていくことになります。実習は、組織実習室にてバーチャルスライドシステムを用いて行います。これはデジタル化した病理標本をiPad上で自由に場所や拡大を選んで観察できるものです。学生同士や教員とのディスカッションもしやすいので充分に活用してください。各実習では、スケッチを含むレポートを提出してもらいます。（英語の使用について）今後、疾患についての新たな情報は英語の情報源から得る機会が大幅に増えていきます。少なくとも専門用語、組織各部位の名称や疾患、病態の名称などは英語表記されても理解出来るようにしてください。それには英語の教科書をみるのが最適です。	病理学総論： 1．病理学で使う用語を正しく理解し、使用できる。2．細胞傷害、変性と壊死について、その定義、分類、過程を説明できる。3．様々な循環障害の病態について、その定義、分類、過程を説明できる。4．創傷治癒、炎症について、その定義、分類、過程を説明できる。5．腫瘍について、その定義、分類、過程を説明できる。6．代表的な病理組織像をみて、上記２～５のどれに相当する変化があるか、説明できる。7．主要な疾患、病態について、その病因をこれまで学んだ基礎医学の知識を用いて概説できる。 病理学各論： 1．主要な疾患、病態について、その病因、発生病理、形態学的変化を概説できる。2．病理組織標本で形態学的変化を観察し、的確に記述できる。3．記述した形態学的変化をもとに、主要な疾患の病理組織学的診断ができる。	1		1		3	2	3	1	2	3	1	
112715J	微生物学（実習）	3年			16時間	1. 病原微生物の性質、特にその危険性を理解し、取り扱い方に習熟する。2. 細菌学的・ウイルス学的検査法の理論的背景を理解する。3. 代表的な細菌学的・ウイルス学的検査法の手技に習熟する。	1．病原微生物（細菌およびウイルス）を扱う場合の注意事項を列挙できる。2．適切な滅菌法と消毒法について説明し，実施できる。3．供試菌の塗抹標本を作成し，これに単染色，グラム染色および特殊染色を施し、光学顕微鏡観察の所見を記述できる。4．単染色，グラム染色および特殊染色の手技に習熟し，その顕微鏡像から起炎菌を推測できる。5．グラム染色像から提測した起炎菌を同定するための、細菌学的検査手順と理論について説明できる。6．細菌学的検査に必要な培地を調製し、所定の方法に従って接種・培養し、培養所見を記述できる。7．ウイルス感染細胞を観察し、その所見を記述する。8．DNAプローブ法やPCR法による細菌・ウイルスの迅速検査法の手順と理論について説明できる。					3					3		
112730J	ウイルス学	3年			22時間	1. 分類学・形態学・生理学・生化学・分子生物学・遺伝学を用いてウイルスを理解する。2. 感染と発症を、ウイルスの病原性と宿主側の防御因子との攻防という視点で捉える。　そのために、感染成立から発症にいたる過程を、免疫学と分子生物学の知識を動員して理解する。3. 滅菌・消毒法、化学療法、ワクチン予防法を理解する。4. ウイルス学的検査法（培養法・免疫学的検査法・遺伝子検査法）の概略を理解する。5. 個々のウイルス疾患の特徴、ウイルスの形態、病原性、生存増殖戦略、などを理解する。6. DNAプローブ法やPCR法による細菌・ウイルスの迅速検査法の手順と理論について説明できる。7. 感染症の疫学、病態、診断、予防・治療法を理解する。	1．ウイルス学の歴史の概略を述べる。2．ウイルスの分類法および病原性ウイルスの分類学的な位置を述べる。3．ウイルスの変異と遺伝、および遺伝子工学研究法についての概略を述べる。4．ウイルス感染症の定義と分類、推移、感染症成立の要因を列挙する。5．ウイルス感染症の診断法、経過、治療法を述べる。6．抗ウイルス療法とワクチンについて述べる。7．感染症関連法について理解している。8．病原微生物の滅菌法と消毒法についての理論と実際について説明できる。9．次のウイルスの分類・形態・生理・病原性、感染症の病態・疫学、診断・予防・治療法の概略を述べる。1）ピコルナウイルス（腸内・ライノウイルス、 HAV）2）トガウイルス（アルファ・ルビウイルス）フラビウイルス（黄熱・日本脳炎・デング熱ウイルス・HCV）3）ラブドウイルス（狂犬病ウイルス）4）オルソミクソウイルス（インフルエンザウイルス）5）パラミクソウイルス（ムンプス，麻疹，RSウイルス）6）アレナウイルス（ラッサ熱・LCMウイルス）7）ブニヤウイルス（ハンターン・シン・ノンプレ・アルボウイルス）8）レオウイルス（ロタウイルス）9）フィロウイルス（エボラ・マールブルグウイルス）10）レトロウイルス（オンコウイルス［白血病・肉腫ウイルス，HTLV-1］，レンチウイルス［HIV］）11）カリシウイルス（ノロウイルス）12）コロナウイルス（SARSウイルス），アストロウイルス13）アデノウイルス14）ヘルペスウイルス（HSV-1，HSV-2，VZV，EBV，CMV，HHV-6，HHV-7，KSHV）15）ポックスウイルス（痘瘡・伝染性軟属腫ウイルス）16）パポバウイルス（ヒトパピローマ・ポリオーマ・JCウイルス）17）パルボウイルス（パルボウイルスB19）18）ヘパドナウイルス（HBV），デルタウイルス（HDV），ヘペウイルス（HEV）19）プリオン					3		3					3	
113015J	放射線基礎医学	3年			10時間	臨床医学に役立つ，放射線医学の基礎と総論を理解する。	1，放射線の単位および物理的性質を理解する。　2，放射線の細胞・組織への生物学的作用を理解する。　3，医療被曝・職業被曝軽減のために必要な，放射線障害・防護・管理に関する知識を得る。　4，放射線の発生原理と画像作成原理を理解する。　5，画像診断学の基礎を理解する。　6，画像解剖を学び，各種画像診断法における正常像を知る。	2		2	1		2	2	2	2	2	2	2	
114515J	環境保健医学Ⅰ（公衆衛生学）	3年			15時間	地域における疾病予防と健康増進を目指した地域保健・医療活動ができるようになるために、社会における健康課題とその成因・背景を、疫学を基礎として理解する。また、ライフサイクルに沿った健康課題に対して、根拠に基づく予防対策を身につける。保健医療政策により社会における疾病予防を理解する。公衆衛生学の理解により、社会や生活と医学・医療の橋渡しができることを目標とする。	1. 公衆衛生学がどのような学問か説明できる。2. 疫学の重要性、疫学手法の種類と特徴、疫学の応用を理解する。3. 保健統計を理解し、わが国の健康課題を説明できる。4．母子保健の仕組みと母子保健サービスについて説明できる。5. 小児保健の概念と日本・海外における取組を概説できる。6. 学校保健の概念と日本・海外における取組を概説できる。7. 主な生活習慣病の動向、その発生要因、予防方法を概説できる。8. 国や地方の保健医療行政における健康課題に対する取組について説明できる。9. 国際保健に関する理解を深め、国際保健医療協力について概説できる。10. 災害時の保健医療体制と現状について理解する。11. グループダイナミクスを通じ、チーム医療の重要性を理解できる。						3	3			3	3	3
114525J	環境保健医学Ⅱ（環境予防医学）				15時間	基礎医学及び臨床医学で臓器別、機能別に学習してきた健康問題を、一人の人間が様々な生活環境とライフスタイルの中で経験する健康問題として総合的にみる視点を習得する。その視点のもとに、臨床現場でのプライマリヘルスケア実践に必要な予防医学の考え方や方法論を学習する。	1．予防医学の視点を習得し、予防医学の重要性を説明できる。　2，産業医の職務と、作業管理・作業環境管理・健康管理について説明できる。　3，労働環境の特徴を健康問題と関連づけて理解し、労働災害や職業病の現状を概説できる。　4，産業現場で起こる中毒や職業がんについて理解し、その予防策が概説できる。　5，日常生活における環境起因性疾病について説明できる。　6，空気・水・物理の環境要因等による生体に及ぼす影響について概説できる。　7，マラリアやその他の原虫症の病態とその対応が説明できる。　8，寄生虫症や病害動物による疾病を理解し、プライマリケアにおける対応ができる。　9，コミュニティヘルスケアの立場から、疾病の予防について説明できる。
10，地域保健医療の実践を理解するとともに、それに必要な対応ができる。			3				3			3	3	3
114615J	法医学	3年			13時間	法医学は医学の中では社会医学に属し，「法律が適正に運用されているか否か」、"社会の疾病"を対象とする応用医学である。法医学の講義は主に法医解剖例を資料として行われるが、臨床医を志す医学生にも実際に法医学の知識が必要となる。死体現象、損傷、窒息、異常温度死、内因性急死、乳児突然死、法医中毒学、血液型、個人識別等の実務的なものから、死の判定、脳死、臓器移植、体外受精、遺伝子操作等の医の倫理を含めた社会的問題に至る広範な分野を取り扱う。	1，個体死や脳死の概念を正確に把握し、これらの相違が認識できる。2，早期および晩期死体現象の特徴を理解し、死後経過時間や死亡時刻が推定できる。3，創傷を観察し、その性状、程度、種類、凶器の種類、受傷機転等が正確に判断できる。4，死亡診断書（死体検案書）を法医学的に正確に記載する方法を修得する。5，法医解剖に際して、必要な検査項目が選定できる。6，薬毒物中毒の一般的知識を修得し、発生頻度の高い中毒の分析方法・結果の吟味ができる。7，血液型の種類、遺伝形式を学び一般的なABO式血液型やRh式血液型について判定ができる。8，死後画像検査（AiCT)の利点、欠点を理解し、死因を推定できる。	3	3	3				3					
114635J	医事法制	3年			78時間	医学の急速な進展は，医療技術の複雑化と細分化をもたらし、これと同時に医師に対する注意義務構造の変化を産み、医事法制を重視する必要性が生じてきた。医事紛争は年々増加の傾向を示しており、医学部学生が医療に関する法的な知識を身につけることは単に自己防衛的な知識を得るということではなく、医療行為というものが近代国家の社会規範の中でどのように位置づけられ、期待されるものは何であるかを明確に認識するために最早必須と言える。	1，民事法における不法行為、債務不履行の概念を修得し、医療行為と事故との因果関係に関する考察ができる。2，刑法の構造を理解し。治療行為の構成要件、違法性、有責性等に関する法的理論を展開できる。3，インフォームドコンセント、尊厳死、安楽死、脳死と臓器移植、生殖医療技術等に関する医師の責務について考察できる。	3	3	2				2					
118200J	研究室配属	3年			150時間	研究室配属では，各講座で行われている医学的研究に学生が参加して、実験やデータ解析、フィールドワーク、臨床研究など様々な研究活動を実際に行う。	このような活動により、科学的思考や研究の進め方
の基本を身につけるとともに、医学研究の面白さを体験することを目的とする。	2	2	2	2	2	3	2	3	2		3	2	

R5年度　医学科　学位授与方針（ディプロマ・ポリシー（DP））
（3＝DP達成のために、特に重要な事項　2＝DP達成のために、重要な事項　1＝DP達成のため、望ましい項目　あてはまらない項目は空欄。）

時間割コード(7桁)	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	GIO(一般目標)、学修目標	SBO(行動目標)、学修成果(到達目標)	医療人としての適切な判断力・行動力		コミュニケーション能力		問題解決・自己研鑽能力		知識を統合し活用する能力	臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力）		研究への志向力	グローバル化への志向力	地域医療への志向力
								1. 豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観に基づいて物事を判断し、行動することができる。	2. 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解し、患者の立場に立って行動することができる。	3. 医療安全の重要性を理解し、また、医師の義務や規則を遵守して行動することができる。	4. 医療人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、患者やその家族と良好な人間関係を築くことができる。	5. 多職種連携のチーム医療を理解し、相互を尊重し行動することができる。	6. 未知の課題に対して、自ら積極的に解決を図ろうとすることができる。	7. 生涯にわたり自己研鑽に励むことができる。	8. 基礎医学、社会医学及び臨床医学で修得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。	9. 修得した医学の知識をもとに、患者の病態から治療・ケアのアプローチまで概説することができる。	10. 基本的な知識、技能、態度を身につけ、患者を総合的に診察・診療することができる。	11. 研究心（リサーチマインド）を持って、真理を探究し、未知の分野を切り拓こうとすることができる。	12. 海外の医療や異文化を理解し、グローバルな視点で物事を判断し行動することができる。	13. 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取組もうとすることができる。
116401J	総合診療・地域医療	3年			30時間	総合診療・地域医療コースでは、生涯学習として必要なスキルである自己主導型学習を学び、それを実践するために、Problem-based-Learning形式での学習を行う。臨床実習、初期研修に進んだ際に活用できる一般的な能力の取得につながる教育を提供する。内容としては、問診から始まる初期診療の組み立ての学習が中心となる。日常診療で多い症候に対して鑑別診断を挙げ、その仮説を修正しながら考えていく思考プロセスを身につける。	1. 問診、身体所見、検査所見から診断に導く 初期診療 の組み立てを理解し，基本的 診療 計画を立案できる。 2. 病歴を聴取できる 。 3. 患者の疾患・病い・健康観を理解する事について知識を有する。 患者の疾患・病い・健康観を統合して理解する事について知識を有する。 患者のコンテクストを理解する事について知識を有する。 4. 臨床推論について説明できる。 5. 血液検査、尿検査の 基準範囲の意義を理解し，測定誤差の要因を説明できる。 6. 日常診療で多い症候（発熱、 咳、腹痛、頭痛、胸痛 ）について 、 鑑別診断を説明できる。 7. 一般的な身体診察法（基本的な流れ、バイタルサインの解釈）についての知識を有する。 8. 一般的な身体診察法（胸部の聴診）の結果を解釈できる。 9. 疑問を調べる際の適切な方法を説明できる。 10. 論文を読むための基本的な型を理解する。 11. 疑問を調べる際の基本的な医学英語を理解できる。 12. 在宅医療で行う範囲、在宅医療の価値・意義について、患者の自己実現支援という観点から理解する。 13. 介護保険制度の概要について知識を得る。介護保険制度において、医師は主治医意見書を作成する必要がある事を理解する。 14. 主治医意見書の記載方法、 ADL レベル、認知症レベルの判定方法について理解する。介護保険制度における介護サービスの種類、内容、適応について知識を得る。 15. 総合診療及び総合診療医の役割について 説明できる。							1	2	3	1	2		2
116403J	消化器	3年			90時間	消化器系の正常構造と機能を理解し，主要な消化器疾患の病態生理，原因，症候，診断，鑑別診断と治療を学ぶ。	1，消化器系各臓器の構造と機能を理解する。 2，主な消化器疾患の原因，病態，症候，診断，治療，疫学について理解する。 3，消化器疾患の主な検査法の特徴を理解する。 4，消化器系の救急疾患に対する対処法を理解する。 5，消化器疾患の病理についてその特徴を理解する。	2	2	2	2	2	3	2	2	2	1	2	2	2
116404J	内分泌・代謝・乳腺	3年			60時間	内分泌・代謝系の構成と機能を理解し、主な内分泌・代謝疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。	1）構造と機能 ①ホルモンの構造、作用機序と分泌調節機能 ②各内分泌器官の位置と分泌されるホルモン ③視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係 ④甲状腺と副甲状腺（上皮小体）から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構 ⑤副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構 ⑥膵島から分泌されるホルモンの作用 ⑦男性ホルモン・女性ホルモンの合成・代謝経路 ⑧男性生殖器、女性生殖器の形態と機能 ⑨ビタミン、微量元素の消化吸収 ⑩糖質・タンパク質・脂質の代謝経路と相互作用を説明できる。 2）診断と検査の基本 ①ホルモンの過剰または欠乏がもたらす身体症状 ②血中ホルモン濃度に影響を与える因子 ③ホルモンの日内変動 ④ホルモン分泌刺激試験と抑制試験の原理と反応の型 ⑤エネルギー摂取の過剰または欠乏がもたらす身体症状 3）症候 ①低身長 ②甲状腺腫 ③肥満・やせ ④月経異常	2							2			2		2
116405J	血液・造血器	3年			60時間	血液・造血器・リンパ網内系疾患の病態生理，病因，症候，臨床検査，病理の特徴を学び，診断と治療のために必要な知識を修得する。	1．造血器（骨髄，末梢血），リンパ節，脾臓の基本構造を理解し,病態との関連を理解する。 2．貧血の分類を学び，その成因，病態，診断，治療法を理解する。 3．出血傾向や血栓症をきたす疾患，病態を理解し，診断と治療法を学ぶ。 4．白血病とその類縁疾患，骨髄増殖疾患の成因，疫学，診断，治療法を学ぶ。 5．リンパ増殖性疾患の成因、病態、診断、治療法を学ぶ。 6．血漿蛋白異常をきたす疾患の病態，診断，治療法を学ぶ。 7．網内系組織の疾患の病態，診断，治療法を学ぶ。 8．輸血療法及び輸血関連検査を学ぶ。 9．がん診療に必要な統計を学ぶ。			2	2		3		2	2	1	2		2
116406J	神経	3年			90時間	脳神経内科，脳神経外科領域における基本的な臨床能力としての知識と技能を包括的に修得する。	1．代表的な脳・神経・筋疾患の疫学，症候学，病態生理，病理を学び，診断・治療を行うための基本を修得する。 2．脳・神経領域の基本的な診察手技を修得する。 3．脳・神経領域における基本的な検査法，所見について理解する。 4．脳・神経領域における主な内科的，外科的治療法について理解する。		2						2	2	1	2	2	2
116407J	腎・尿路	3～4年			60時間	腎 ・尿路・男子生殖器疾患の病態を学び，診断，治療を行うための基本的な知識を修得する。	1，腎臓による水・電解質と酸塩基平衡の調節機能を理解する。 2，腎疾患の検査，診断，治療法を学ぶ。 3，　末期腎 不全，血液浄化療法，腎移植について学ぶ。 4，腎・尿路・男子生殖器の腫瘍 性病変の検査，診断，治療法を学ぶ。 5，尿路・性器奇形，尿路の機能的異常について理解する。 6，泌尿器科手術，抗癌化学療法，内分泌療法を学ぶ。						3	2	2	2			2	2
116416J	環境保健医学実習	3～4年	30時間			1. 地域において医学・医療が関わる環境と健康について理解する。 2．地域における災害保健の課題や、島根原子力発電所の安全対策を理解する。	地域の中で医学・医療が関わる環境として災害保健の課題や、島根原子力発電所の安全対策を理解する。					2		2	2				3
116124K	病理実習	3～4年	60時間			1）臨床医学，社会医学の学習ならびに診療に必要な基本的病変ならびに主要疾病の原因・病態成立機序・形態学的変化を理解する。 2）疾病および患者に関わる問題を病理学的にとらえ，解決するために、臨床的問題と病理学とを結びつける態度，能力を養う。	1）病理学総論の基本的知識，思考方法を確実に身につける。 2）主要な疾病についてその原因，成り立ち，形態学的変化を病理学的に説明できる。 3）マクロおよびミクロ標本で形態学的変化を観察し，的確に記述できる。 4）記述した形態学的変化をもとに，主要な疾患の診断ができる。	2					2	2	3	2	2	2		
116418J	ＰＢＬ	3～4年	90時間			診療の基本となる、症候・病態について、臓器横断的な鑑別診断から、臓器特異的な診断について、自己学習及び少人数のグループ学習を行い、過去の講義資料に加えて、教科書や参考書・各種文献・インターネットなど、さまざまなツールや手法を駆使して仮説の検証を行う。	これらの学修を通じて問題の提示、解決の能力、さらにはチーム医療につながる、コミュニケーション能力を養う。			3	3	3	2	2	3	2			
116409J	運動器	4年		30時間		運動部の変形・外傷・炎症・変性・代謝疾患・腫瘍についての病態を理解するとともに，それらの診断法，治療法の知識を習得し，選択する判断力を養う 。	1．骨，関節，筋の構造と機能を知るとともに整形外科的診断法の意義を理解する。 2．頻度の高い骨折，脱臼，捻挫の病態，症状，合併症を理解する。 3．肩，肘関節の代表的疾患と外傷の診断法と治療法を理解する。 4．手の機能を理解し，代表的疾患と外傷の病態と治療法を理解する。 5．股関節，　膝関節，足関節の代表的な疾患，検査法，治療法を理解する。 6 ．スポーツ障害の代表的疾患の診断法と治療法について理解する。 7．骨・関節感染症の特徴と診断法および治療法について理解する。 8．骨・軟部腫瘍の診断法，治療法について理解する。 9．骨系統疾患，代謝疾患の特徴，診断法および治療法について理解する。 10. リハビリテーションの概念，手技を理解する。						3	2	2	2				
116410J	感覚器	4年		60時間		眼 耳，鼻（副鼻腔），顔面，口腔，咽頭，喉頭，気管，頸部の形態と機能を学び，これら領域における疾患の原因 病態 診断 治療 予防について学習する。	1．眼 およびその付属器 の解剖を学び機能を理解する。 2．眼科学的検査法 と診断法 を学習する。 3，　白内障，緑内障，　網膜硝子体疾患，その他の代表的眼疾患 の 病態 を理解 する 。 4，　白内障，緑内障，　網膜硝子体疾患，その他の代表的眼疾患の治療法 を 学習する 。 5 ．内耳，中耳，外耳，鼻副鼻腔，口腔・咽頭，喉頭，気管 頸部の機能解剖を理解する。 6 ．聴覚，平衡覚，嗅覚，味覚，嚥下に関する検査法について基本的な理解を深める。 7 ．耳鼻咽喉科・頭頸部領域における疾患の病態，診断，治療について理解する。 8 ．耳科手術，鼻内視鏡手術，頭頸部癌手術について基本的な理解を深めると同時に手術支援機器について学習する。 9 顎・口腔・唾液腺・顎関節・顔面の解剖を学習し，その生理機能について理解する。 10 顎・口腔・顔面に発生する疾患の病態・診断・治療について学習する。 11 歯科 口腔 疾患の病態と全身 および全身疾患 との関連について学習する。 12 周術期医口腔機能管理（口腔ケア）による全身との関連について学習する。	2				1	3	2	2	2	1	2		
116412J	周産期・女性生殖器	4年		60時間		女性生殖器の解剖，妊娠から分娩・産褥に至るまでの生理と病態および周産期医学などの臨床医学を学ぶとともに，生殖，不妊，内分泌学および性器の腫瘍や炎症などの臨床医学を学び，患者さんの診療ならびに疾患理解に必要な周産期学的方法論・婦人科学的方法論を包括的に修得する。	1．女性生殖器の発生・分化および生殖生理を理解する。 2．正常周産期医学の理解に必要な基礎知識（性器の解剖学，妊娠から分娩・産褥に至る生理学および内分泌学）を理解する。 3．異常周産期医学における主要疾患の定義・原因・診断・治療を理解する。 4．婦人科学の理解に必要な基礎知識（性器の解剖，内分泌学，不妊症学，更年期医学，腫瘍学，感染症学，婦人科手術学 ）を理解する。 5．母体保護法をはじめとする女性に関わる法律を学び，避妊法を含む家族計画について理解する。	2	2	2	2	1		2	2	2	1	2		2

									R5年度　医学科　学位授与方針（ディプロマ・ポリシー（DP）） （3＝DP達成のために、特に重要な事項　2＝DP達成のために、重要な事項　1＝DP達成のため、望ましい項目　あてはまらない項目は空欄。）												
									医療人としての適切な判断力・行動力			コミュニケーション能力		問題解決・自己研鑽能力		知識を統合し活用する能力	臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力）		研究への志向力	グローバル化への志向力	地域医療への志向力
時間割コード (7桁)	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	GIO(一般目標)、学修目標	SBO(行動目標)、学修成果(到達目標)		1. 豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観に基づいて物事を判断し、行動することができる。	2. 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解し、患者の立場に立って行動することができる。	3. 医療安全の重要性を理解し、また、医師の義務や規則を遵守して行動することができる。	4. 医療人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、患者やその家族と良好な人間関係を築くことができる。	5. 多職種連携のチーム医療を理解し、相互を尊重し行動することができる。	6. 未知の課題に対して、自ら積極的に解決を図ろうとすることができる。	7. 生涯にわたり自己研鑽に励むことができる。	8. 基礎医学、社会医学及び臨床医学で修得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。	9. 修得した医学の知識をもとに、患者の病態から治療・ケアまで概説することができる。	10. 基本的な知識、技能、態度を身につけ、患者を総合的に診察・診療することができる。	11. 研究心（リサーチマインド）を持って、真理を探究し、未知の分野を切り拓こうとすることができる。	12. 海外の医療や異文化を理解し、グローバルな視点で物事を判断し行動することができる。	13. 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取組もうとすることができる。
116413J	成長・発達	4年		30時間		1，新しい生命が誕生してから，新生児，乳児，幼児，学童，思春期を経て成人するまでの， 身体的成長（諸臓器の発達）および機能発達（神経，精神，情緒，社会性の発達）につ いて説明できる。 2，成長・発達過程で起こる「形態的障害」と「機能的障害」に分けて説明できる。 3 小児保健活動の内容と意義を説明できる。 4，新生児の分類，生理，評価方法について説明できる。 5，新生児に起こる疾患の種類，診断と治療を説明できる。 6，先天奇形・遺伝性疾患のみかた，臨床症状，種類，病因を系統的に説明できる。 7，遺伝カウンセリングの目的，必要性、手法を系統的に説明できる。 8，神経精神障害をきたす疾患の分類，病因，診断，治療について説明できる。 9，先天性心疾患の血行動態、診断、治療について説明できる。 10，小児の血液腫瘍・アレルギー・感染 症・消化器・歯科領域 の診断、治療を 説明できる。 11 小児の内分泌代謝疾患のの種類，診断，治療 を説明できる。		2	2	2	2	3	2	2	2	1	2	2	2
116414J	精神・行動	4年		30時間		1，精神医学に関する主要原因，病態，機序，治療について理解する。 2，精神医学の多方面性 精神病理学的側面,身体医学的側面 社会医学的側面 を理解する。 3，精神疾患患者ならびに疾患に関する問題を精神医学的に捉え解決するために，診察法，面接の仕方，症状を把握する能力，習慣を養う。										2	2					
116419J	診察診断学・共用試験	4年			120時間	患者の訴えから病態を正しく把握する医療面接の基本的手法を学ぶとともに，身体診察法の基本手技を講義，シミュレーター等による実習，OSCE演習を通して体得する。	1. 患者の訴えを聞いて病歴をとり，診療録に記載できる。 2. バイタルサイン，皮膚や体型，胸部，腹部などの理学的所見をとり，系統的に診療録に記載できる。 3. 救急時に求められる対応の原則を説明でき、実際にACLSが実施できる。 4. 小児や妊娠に伴う医療面接と身体診察の留意点を説明できる。 5. 医療における安全性の確保と危機管理の原則を説明できる。 6. 臨床試験や遺伝子診断・治療，緩和医療などにおけるインフォームド・コンセントの原則を説明できる。 7. 臨床実習を行うために必要な医学知識を習得しているか否か確認する。	2	2	2	3				3	3	3				
116320J 116311J	臨床実習Ⅰ・Ⅱ	4～6年	3040時間			将来医師として必要な実践の臨床能力を修得することを目標とする。	・患者や指導医，病棟スタッフと良好な関係を築く能力 ・患者から情報を的確に聞きだし，まとめる能力 ・身体所見を正しくとり、診療内容を記載する能力 ・要点を把握し，プレゼンテーションする能力 ・基本的検査・基本的操作処置を実施する能力 ・問題点を抽出し，解決に向かって系統的にアプローチする能力 ・患者から得た情報と臨床病態学の知識を統合する能力 ・学習に必要な情報を図書館やコンピューターを使って見つける能力	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	2	2	3
116503J	膠原病	4年		30時間		膠原病および膠原病類縁疾患，自己炎症性疾患,免疫不全症の病態を理解し，症候，診断，治療について学ぶ。	1，各疾患における原因，病理所見を理解する。 2，各疾患における血液検査，尿検査，免疫学的検査の意義や動向を理解する。 3，各種自己抗体と疾患や病態との関連性を理解する。 4，各疾患における病態，症候，診断法，治療，予後について理解する。 5，自己免疫,自己炎症の概念を理解する。 6，副腎皮質ステロイド薬および免疫抑制薬の作用,副作用を理解する。 7，標的治療と免疫学的機序の関係を理解する。 8，原発性免疫不全症の病因（機序），症候，診断，治療，予後について理解する。							2	2						
116504J	アレルギー・皮膚	4年		30時間		皮膚は生体と外界を境界する器官であり，それ自身であるいは内臓諸臓器と連携しながら種々の機能を果たしている。このような観点から皮膚に関する生理的及び病的状態が理解できるように努力する。 アレルギーの機序を理解し，アレルギー機序が関連する疾患について，症候，診断，治療について学ぶ。	1，皮膚の構造と機能を理解する。 2，皮疹の見方とそのバックグラウンドを理解する。 3，皮膚疾患の検査法を理解する。 4，皮膚疾患の診察の進めかたを理解する。 5，皮膚と内臓諸臓器との関連を理解する。 6，皮膚疾患の治療法を理解する。 1，アレルギーの５型の機序を理解する。 2，アレルギー機序の関与する皮膚科，耳鼻咽喉科，眼科，呼吸器科領域の疾患について理解する。 3，アレルギー疾患の治療法について理解する。							2	2						
116411J	麻酔・救急・Acute Care Surgery	4年		90時間		・麻酔・全身管理に必要な基礎的知識および技能を習得する。 ・救急医療を理解するために，社会的なシステムと救急疾患の初期治療を学ぶ。 ・集中治療 管理 の必要性を 理解し，その基本的治療を学ぶ。 ・Acute Care Surgery の専門性を理解し，治療戦略について説明できる			2	2	2	1	3	2	2	2	1	2	2	2
116415J	腫瘍・緩和ケア・老年学	4年		90時間		臨床腫瘍学 ・緩和ケア・老年学 に ついて 理解する。	1. 臨床腫瘍学における基礎研究、病理、臨床薬理について説明できる。 2. がん化学療法、放射線治療の目的、適応、有害反応について説明できる。 3. がんの診断、検査について説明できる。 4. がん化学療法の有害反応とその対策について説明できる。 5. 遺伝性腫瘍やがんゲノム医療について説明できる。 6. がんに対する外科治療の目的、適応、合併症について説明できる。 7. 各種がんに対する標準的化学療法の概念と適応について説明できる。 8. がん化学療法の有害反応とその対策について説明できる。 9. 緩和ケアの概念について理解する。 10.痛みや症状を和らげるための知識とその対応法を理解する。 11.加齢に伴う身体的変化、精神・心理的変化、高齢者に特徴的な病態を理解する。 12.高齢者がんに対する治療の特有性や方法を説明できる。 13.高齢者に対するリハビリテーションの目的、適応、方法を説明できる。	2	2	2	2	2	3	2	2				2	
116501J	呼吸器・感染症	4年			90時間	・呼吸器系の構造と機能を理解し、主な呼吸器疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。 ・主要な感染症の疫学、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。診断と治療に必要な病原微生物、感染臓器と治療薬の関係性を理解する。	1.呼吸器感染症では，主な病原体を列挙し，症候，診断と治療を説明できる。 2.呼吸器の異常について，概説できる。	2	2	2	2	1	3	2	2	2	1	2	2	2
116502J	循環器	4年			60時間	循環器系の正常な構造と機能を知り，主要な循環器疾患の病態生理を理解し，診断・治療を行うための基本を習得する。	1，循環生理を理解し，各種の心疾患の原因，病態，診断，治療を学ぶ。 2，不整脈の病態，診断，治療を学ぶ。 3，心血管疾患の外科治療を学ぶ。 4，高血圧,動脈硬化について学ぶ。	2	2	2	2	1		2	2	2	1	2	2	
118701J	総合診療のコアコンピテンシー	1～6年	60時間			1，総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。 2，診療所や病院において、通常の臨床実習では修得が困難な、人間中心の医療・ケアについての知識・技能・態度を修得する。 3，上記について6年間で縦断的にコースに取り組むことで、総合診療領域におけるコア・コンピテンシーについて、6年生修了時に初期臨床研修医修了時の習熟度に達することを目標とする。	1，総合診療領域におけるコア・コンピテンシーの「人間中心の医療・ケア」について説明できる。 2，医療現場での実習を行い、体験症例に対しての「人間中心の医療・ケア」についてのポートフォリオを作成できる。 3，一般外来患者に対して、医療面接と基本的身体診察法を施行し、診断仮説を立てることができる。 4，一般外来患者に対して、生命に関わる重篤な疾患と、頻度の高い疾患を意識した診断仮説を立てることができる。	3	3	3	2	2	2	2	3	3	3	2	2	3
118705J	しまね総合診療医の集い	1～6年	15時間			1，総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。 2，診療所や病院において、通常の臨床実習では修得が困難な、人間中心の医療・ケアについての知識・技能・態度を修得する。 3，上記について6年間で縦断的にコースに取り組むことで、総合診療領域におけるコア・コンピテンシーについて、6年生修了時に初期臨床研修医修了時の習熟度に達することを目標とする。	1，総合診療領域におけるコア・コンピテンシーの「人間中心の医療・ケア」について説明できる。 2，医療現場での実習を行い、体験症例に対しての「人間中心の医療・ケア」についてのポートフォリオを作成できる。 3，一般外来患者に対して、医療面接と基本的身体診察法を施行し、診断仮説を立てることができる。 4，一般外来患者に対して、生命に関わる重篤な疾患と、頻度の高い疾患を意識した診断仮説を立てることができる。													
118706J	臨床スキル育成セミナーⅠ	1～6年	20時間			1，総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。	1，一般外来患者に対して、医療面接と基本的身体診察法を施行し、診断仮説を立てることができる。 2，一般外来患者に対して、生命に関わる重篤な疾患と、頻度の高い疾患を意識した診断仮説を立てることができる。	2		2	2	2		2	3	3	3			**2**
118707J	臨床スキル育成セミナーⅡ	1～6年	20時間			1，総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。	1，一般外来患者に対して、医療面接と基本的身体診察法を施行し、診断仮説を立てることができる。 2，一般外来患者に対して、生命に関わる重篤な疾患と、頻度の高い疾患を意識した診断仮説を立てることができる。	2		2	2	2		2	3	3	3			**2**
118708J	ハンズオンエコーセミナーⅠ	1～6年	20時間			1，総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。 2，実臨床で有用とされるレベルのエコーの実技履修とエコーレポートの作成ができる。	1，実臨床でのエコー検査の適応について修得し、説明ができる。 2，実臨床で有用とされるレベルのエコー実技ができる。 3，実臨床で有用とされるレベルのエコーレポートの作成ができる。										3			
118709J	ハンズオンエコーセミナーⅡ	1～6年	20時間			1，総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。 2，実臨床で有用とされるレベルのエコーの実技履修とエコーレポートの作成ができる。	1，実臨床でのエコー検査の適応について修得し、説明ができる。 2，実臨床で有用とされるレベルのエコー実技ができる。 3，実臨床で有用とされるレベルのエコーレポートの作成ができる。										3			

									R5年度　医学科　学位授与方針（ディプロマ・ポリシー（DP）） （3＝DP達成のために、特に重要な事項　2＝DP達成のために、重要な事項　1＝DP達成のため、望ましい項目　あてはまらない項目は空欄。）												
									医療人としての適切な判断力・行動力			コミュニケーション能力		問題解決・自己研鑽能力		知識を統合し活用する能力	臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力）		研究への志向力	グローバル化への志向力	地域医療への志向力
時間割コード (7桁)	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	GIO(一般目標)、学修目標	SBO(行動目標)、学修成果(到達目標)		1. 豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観に基づいて物事を判断し、行動することができる。	2. 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解し、患者の立場に立って行動することができる。	3. 医療安全の重要性を理解し、また、医師の義務や規則を遵守して行動することができる。	4. 医療人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、患者やその家族と良好な人間関係を築くことができる。	5. 多職種連携のチーム医療を理解し、相互を尊重し行動することができる。	6. 未知の課題に対して、自ら積極的に解決を図ろうとすることができる。	7. 生涯にわたり自己研鑽に励むことができる。	8. 基礎医学、社会医学及び臨床医学で修得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。	9. 修得した医学の知識をもとに、患者の病態から治療・ケアまで概説することができる。	10. 基本的な知識、技能、態度を身につけ、患者を総合的に診察・診療することができる。	11. 研究心（リサーチマインド）を持って、真理を探究し、未知の分野を切り拓こうとすることができる。	12. 海外の医療や異文化を理解し、グローバルな視点で物事を判断し行動することができる。	13. 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取組もうとすることができる。
118710J	臨床研究(学会発表・論文作成)	1～6年	15時間			1，総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。 2，実臨床で活用できる、臨床疫学・統計学・EBMについての知識・技能を身につける。 3，総合診療に関する学会発表や論文作成を行う。	1，総合診療領域において、症例報告・研究による学会発表や論文作成をすることができる。		2		2	2	2	2	2	2		3	3	2
118711J	胸部画像コース	4～6年	15時間			1，総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。 【ディプロマシーとの関連】 《臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力）》	1，総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することでその資質を修得する。 2，実臨床で必須とされるレベルの胸部画像読影と読影レポートの作成ができる。								2	2	1	2			